

<福島県知事賞>

相続されるもの

田村市立船引中学校

3年 大友 陽加

公民の授業を通して、私達の身近にある税について考えてみると、よく分からないことが多くあり、自分の税に対する知識の乏しさを実感した。そこで、私は将来向き合うことになるかも知れない、相続税について調べてみることにした。

私の祖父母は農業を営んでいる。家と広大な田畑、倉などが敷地内にある。今は畑仕事忙しい時期だ。

もし祖父母が亡くなったら、それらの財産を相続するのは、私の父になるだろう。そして、その時に支払わなければならない税金のことを相続税という。

相続税には、特定の人に富が集中するのを防ぐという重要な役割がある。では、なぜこのような役割を持つ税がつくられたのか。それは、今までの日本の歴史に関係している。かつて武家や貴族など一部の人たちに富が集中していた時代があった。同じような能力を持ち生まれても裕福な家に生まれた人は一生金持ちのまま暮らせるが、貧乏な家に生まれた人は一生貧乏なまま暮らすことになる。生まれた環境に人生を左右され、一生その環境を変えられないのは不公平だろう。

だからこそ、相続税は作り出された。そのため、相続税は多くの相続財産を受け取る人にだけ発生し、受け取る財産が少ない人には発生しないようしくみになっているのである。

税金は学校や市役所などの公共の施設やサービスに利用されている。しかし、税金の役割は、有効に「使う」ということだけではなく、貧富の差をなくすために「集める」ということにもある。

私達は、医療費や学費など、様々な場面で税金の世話になっているということを改めて強く感じた。

祖父母の財産がいつか父へ、そして私か妹へ相続される日が来たら、相続税をきちんと支払いたい。わずかかもしれないが、その税金を未来の子ども達の教育や医療の現場に役立ててほしい。